

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年 8 月24日
【発行者名】	フランクリン・templton・インベストメンツ株式会 社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小口 龍也
【本店の所在の場所】	東京都港区六本木一丁目 9 番10号
【事務連絡者氏名】	西村 太郎
【電話番号】	03-6230-5600
【届出の対象とした募集（売 出）内国投資信託受益証券 に係るファンドの名称】	templton・グローバル株式ファンド
【届出の対象とした募集（売 出）内国投資信託受益証券 の金額】	1兆円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

本日、半期報告書を提出いたしましたので、平成27年2月20日付をもって提出した有価証券届出書（平成27年5月18日提出の有価証券届出書の訂正届出書にて訂正済み。以下「原届出書」といいます。）の関係情報を更新するため、また、記載事項の一部に訂正事項がありますのでこれを訂正するため、本訂正届出書を提出するものです。

2【訂正の内容】

<訂正前>および<訂正後>に記載している下線部_____は訂正部分を示し、<更新後>の記載事項は原届出書の更新後の内容を示します。

なお、「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 5 運用状況」は原届出書の更新後の内容を記載しています。また、原届出書の「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況 1 財務情報」に「中間財務諸表」の記載事項が追加されます。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

<訂正前>

基本的性格
（前略）

当ファンドの商品分類および属性区分の定義については下記を参照して下さい。

なお、一般社団法人投資信託協会が定める商品分類および属性区分の内容は、同協会ホームページ（<http://www.toushin.or.jp>）で閲覧できます。

一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づく商品分類および属性区分

（平成26年12月末日現在）

（後略）

<訂正後>

基本的性格
（前略）

当ファンドの商品分類および属性区分の定義については下記を参照して下さい。

なお、一般社団法人投資信託協会が定める商品分類および属性区分の内容は、同協会ホームページ（<http://www.toushin.or.jp>）で閲覧できます。

一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づく商品分類および属性区分

（後略）

（3）【ファンドの仕組み】

<訂正前>

委託会社の概況

・資本金

490,000千円（平成26年12月末日現在）

・沿革

- 平成8年9月25日 テンプルトン投資顧問株式会社設立
 平成9年2月28日 投資顧問業者の登録
 平成9年11月28日 投資一任契約業務の認可取得
 平成12年7月3日 フランクリン・テンプルトン・インベストメンツ株式会社に商号変更
 平成12年9月26日 投資信託委託業の認可取得
 平成15年9月30日 フィデュシャリー・トラスト・インターナショナル投資顧問株式会社と合併
 平成19年9月30日 金融商品取引法の施行に伴い金融商品取引業者（投資運用業及び投資助言・代理業）の登録
 平成25年3月29日 金融商品取引業者（第二種金融商品取引業）の登録

・大株主の状況

株主名	住所	所有株式数	所有比率
フランクリン・テンプルトン・キャピタル・ホールディングス・プライベート・リミテッド	シンガポール共和国038987 サンテックタワーワン 38-03 テマセック大通り7	43,580株	100%

（平成26年12月末日現在）

- ・フランクリン テンプルトン インベストメンツ（委託会社が属するグループ）の概要
 フランクリン テンプルトン インベストメンツは、米国において65年以上の歴史を持ち、世界35カ国に拠点を有する独立系資産運用グループです。
 フランクリン、テンプルトン等のブランドで広く親しまれており、多様な運用商品やサービスをグローバルに提供しています。
 グループの運用総資産は、2014年12月末日現在、8,801億米ドル（約105.5兆円）です。
2014年12月末日WMロイター（1ドル=119.8950円）で換算

<訂正後>

委託会社の概況

・資本金

490,000千円（平成27年6月末日現在）

・沿革

- 平成8年9月25日 テンプルトン投資顧問株式会社設立
 平成9年2月28日 投資顧問業者の登録
 平成9年11月28日 投資一任契約業務の認可取得

- 平成12年7月3日 フランクリン・テンプルトン・インベストメンツ株式
会社に商号変更
- 平成12年9月26日 投資信託委託業の認可取得
- 平成15年9月30日 フィデュシャリー・トラスト・インターナショナル投
資顧問株式会社と合併
- 平成19年9月30日 金融商品取引法の施行に伴い金融商品取引業者（投資
運用業及び投資助言・代理業）の登録
- 平成25年3月29日 金融商品取引業者（第二種金融商品取引業）の登録

・大株主の状況

株主名	住所	所有株式数	所有比率
フランクリン・テンプルトン・キャピタル・ホールディングス・プライベート・リミテッド	シンガポール共和国038987 サンテックタワーワン 38-03 テマセック大通り7	43,580株	100%

（平成27年6月末日現在）

- ・フランクリン テンプルトン インベストメンツ（委託会社が属するグループ）の概要
フランクリン テンプルトン インベストメンツは、米国において65年以上の歴史を持ち、世界35カ国に拠点を有する独立系資産運用グループです。
フランクリン、テンプルトン等のブランドで広く親しまれており、多様な運用商品やサービスをグローバルに提供しています。
グループの運用総資産は、2015年6月末日現在、8,665億米ドル（約106.0兆円）です。
2015年6月末日WMロイター（1ドル=122.365円）で換算

2【投資方針】

（１）【投資方針】

<更新後>

（参考）投資対象ファンドの概要

ファンド名	テンプルトン・グロース・ファンド
英文名	Templeton Growth Fund, Inc.
設定形態	米国籍投資法人 / オープンエンド型 / 米ドル建て 1
投資目的	長期的な元本の成長を図ることを投資目的とします。
主な投資戦略	<p>主に世界各国（新興国を含みます。）の株式（普通株式、優先株式、転換証券など）に投資を行います。また、預託証券にも投資を行います。</p> <p>上述の主要投資に加えて、市場動向によって、純資産総額の25%を限度として世界各国の公社債（長期債、中期債、短期債など）に投資することがあります。</p> <p>上記のほか、組入有価証券の貸付および派生商品への投資等を行うことがあります。</p> <p>株式の銘柄選択にあたっては、長期的な視点から企業価値に着目したボトム・アップアプローチによって投資する株式を絞り込みます。その選定は、長期的な企業の収益、資産、キャッシュフローの潜在性などをもとにした評価による企業価値と株価を比較して行います。また、企業評価を行う際には、株価収益率、株価キャッシュフロー倍率、利益率、清算価値なども考慮します。</p> <p>* 資金動向、市況動向によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>
主な投資制限	-
関係法人	<p>運用会社：テンプルトン・グローバル・アドバイザーズ・リミテッド（TGAL）</p> <p>管理事務代行会社：フランクリン・テンプルトン・サービシーズ・エルエルシー</p> <p>名義書換事務代行会社：フランクリン・テンプルトン・インベスター・サービシーズ・エルエルシー</p> <p>保管銀行：JPモルガン・チェース・バンク・エヌ・エー</p>
設定日	1954年11月29日 2
決算日	8月31日
申込手数料	かかりません。 3
管理報酬 4	年0.78%以内 3

1 当ファンドは、テンプルトン・グロース・ファンドのAdvisor Classに投資します。

テンプルトン・グロース・ファンドは、各シェアクラス（ファンドには、申込手数料や運用報酬等の異なる複数のシェアクラスが用意されています。）に申し込まれた資金をまとめて運用しますが、基準価額はシェアクラス毎に算出・発表されます。

2 当ファンドが投資を行うAdvisor Classは、1997年2月1日に導入されました。

3 当ファンドが投資を行うAdvisor Classのものです。

4 この他に名義書換事務代行報酬、保管銀行報酬、監査費用、組入れ有価証券の売買委託手数料等取引に要する費用等がかかります。

ファンド名	フランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズ テンプルトン・グロース（ユーロ）・ファンド
英文名	Franklin Templeton Investment Funds - Templeton Growth (Euro) Fund
設定形態	ルクセンブルク籍投資法人 / オープンエンド型 / ユーロ建て 1
投資目的	元本の成長を図ることを投資目的とします。
主な投資戦略	主に世界各国（新興国を含みます。）の株式（普通株式、優先株式）に投資を行います。また、米国、欧州およびグローバルの預託証券にも投資を行います。 市場動向によって、純資産総額の25%を限度として世界各国の公社債（長期債、中期債、短期債など）に投資することがあります。 株式銘柄選択にあたっては、長期的な視点から企業価値に着目して投資する株式を絞り込みます。その選定は、長期的な企業の収益、資産、キャッシュフローの潜在性などをもとにした評価による企業価値と株価を比較して行います。
主な投資制限	同一発行体の証券への投資は、原則としてファンドの純資産総額の10%以内とします。 デリバティブ取引の利用はヘッジ目的に限定しません。 デリバティブ取引のエクスポージャーはファンドの純資産総額以内とします。
関係法人	運用会社：テンプルトン・グローバル・アドバイザーズ・リミテッド（TGAL） 管理会社：フランクリン・テンプルトン・インターナショナル・サービシーズ・エス・エー・アール・エル 保管銀行：JPモルガン・バンク・ルクセンブルク・エス・エー
設定日	2000年8月9日 2
決算日	6月30日
申込手数料	かかりません。 3
運用報酬 4	年0.70% 3
管理会社報酬 4	年0.20%
保管銀行報酬 4	年0.01%～年0.14%

1 当ファンドは、テンプルトン・グロース（ユーロ）・ファンドのClass I (Ydis) USD（米ドル建て）に投資します。テンプルトン・グロース（ユーロ）・ファンドは、各シェアクラス（ファンドには、申込手数料や運用報酬等の異なる複数のシェアクラスが用意されています。）に申し込まれた資金をまとめて運用しますが、基準価額はシェアクラス毎に算出・発表されます。

2 当ファンドが投資を行うClass I (Ydis) USDは、2005年12月29日に導入されました。

3 当ファンドが投資を行うClass I (Ydis) USDのものです。

4 この他に監査費用、組入れ有価証券の売買委託手数料等取引に要する費用等がかかります。

ファンド名	テンプルトン・グロース・ファンド
英文名	Templeton Growth Fund Limited
設定形態	ケイマン籍投資法人 / オープンエンド型 / 米ドル建て
投資目的	長期的な元本の成長を図ることを投資目的とします。

主な投資戦略	<p>主に世界各国（新興国を含みます。）の株式（普通株式、優先株式、転換証券など）に投資を行います。また、預託証券にも投資を行います。</p> <p>上述の主要投資に加えて、市場動向によって、純資産総額の25%を限度として世界各国の公社債（長期債、中期債、短期債など）に投資することがあります。</p> <p>上記のほか、組入有価証券の貸付および派生商品への投資等を行うことがあります。</p> <p>株式の銘柄選択にあたっては、長期的な視点から企業価値に着目したボトム・アップアプローチによって投資する株式を絞り込みます。その選定は、長期的な企業の収益、資産、キャッシュフローの潜在性などをもとにした評価による企業価値と株価を比較して行います。また、企業評価を行う際には、株価収益率、株価キャッシュフロー倍率、利益率、清算価値なども考慮します。</p> <p>*資金動向、市況動向によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>
主な投資制限	<p>同一銘柄の株式への投資は、発行株式の50%を超えないものとします。</p> <p>信用取引は行いません。</p>
関係法人	<p>運用会社：テンプルトン・グローバル・アドバイザーズ・リミテッド（TGAL）</p> <p>管理事務代行会社：フランクリン・テンプルトン・サービシーズ・エルエルシー</p> <p>名義書換事務代行会社：テンプルトン・アセット・マネジメント・リミテッド</p> <p>保管銀行：JPモルガン・チェース・バンク・エヌ・エー</p>
設定日	2006年11月27日
決算日	8月31日
申込手数料	かかりません。
運用報酬	年0.63%以内

この他に管理事務代行報酬、名義書換事務代行報酬、保管銀行報酬、監査費用、組入れ有価証券の売買委託手数料等取引に要する費用等がかかります。

<ご参考>

下図は、当ファンドの投資対象ファンドである「テンプレトン・グロース・ファンド」、「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グロース(ユーロ)・ファンド」、「テンプレトン・グロース・ファンドII」の運用プロセスを示したものです。



(注) バーゲンリスト:ボトムアップ分析によって著しく割安と判断された銘柄群の通称です。新たに投資可能と判断した銘柄は、全て一旦このリストに入ります。

上記の図は説明のみを目的に作成されたものです。

投資対象ファンドはテンプレトン・グローバル株式グループが運用を担当します。

1. 売買回転率は、2015年3月末現在における、過去5年間のテンプレトン・グローバル株式グループ全体の実績に基づいており、投資対象ファンドの過去の売買回転率を示すものではありません。回転率は同グループの長期的アプローチに基づきポートフォリオを運用する結果発生するものですが、実際の回転率は各ポートフォリオの投資ガイドラインや、市場動向、経済情勢等、様々な要因により変化することがあります。上記は投資手法の概略であり、個別戦略における銘柄選択の手法と異なる場合があります。

(3) 【運用体制】

<訂正前>

(前略)

ファンドの運用体制等は平成26年12月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

<訂正後>

(前略)

ファンドの運用体制等は平成27年6月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

3【投資リスク】

<更新後>

参考情報

ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移



- 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額が記載されており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- ファンドの年間騰落率は、2010年7月から2015年6月の5年間の各月末における1年間の騰落率を表示したものです。

当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- (注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- (注) 2010年7月~2015年6月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。
- (注) 上記の騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。
- (注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株:東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株:MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

新興国株:MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債:NOMURA-BPI国債

先進国債:シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債:JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド(円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド(円ベース)は、委託会社で円換算しています。

<代表的な資産クラスの指数の著作権等について>

○東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(株東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数(TOPIX)の商標又は標章に関するすべての権利は株東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、株東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、株東京証券取引所は、本商品の発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

○MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)、MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI国債を用いて行われるフランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

○シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関するすべての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイドは、J.P. Morgan Securities LLCが公表しているインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属しています。

4【手数料等及び税金】

< 訂正前 >

（前略）

上記は課税方法等により異なる場合があります。

上記は平成26年12月末日現在のもので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

< 訂正後 >

（前略）

上記は課税方法等により異なる場合があります。

上記は平成27年6月末日現在のもので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

<更新後>

以下は平成27年6月30日現在の運用状況であります。

なお、投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいい、小数点以下3桁目を四捨五入し、小数点以下2桁目まで表示しております。

(1)【投資状況】

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資証券	アメリカ	253,649,959	14.44
	ルクセンブルク	260,808,074	14.85
	ケイマン	1,219,977,078	69.44
	小計	1,734,435,111	98.73
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		22,333,093	1.27
合計(純資産総額)		1,756,768,204	100.00

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

a. 投資有価証券の主要銘柄

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量	簿価単価(円)	簿価金額(円)	時価単価(円)	時価金額(円)	投資比率(%)
1	ケイマン	投資証券	テンプルトン・グロース・ファンド	915,722.713	1,342.05	1,228,947,498	1,332.25	1,219,977,078	69.44
2	ルクセンブルク	投資証券	フランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズ - テンプルトン・グロース(ユーロ)・ファンド I (Ydis) USD	117,739.904	2,237.16	263,403,179	2,215.12	260,808,074	14.85
3	アメリカ	投資証券	テンプルトン・グロース・ファンド Advisor Class	85,526.730	3,086.96	264,017,979	2,965.73	253,649,959	14.44

b. 種類別投資比率

種類	投資比率(%)
投資証券	98.73
合計	98.73

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

平成27年6月末日及び同日前1年以内における各月末、ならびに下記計算期間末の純資産等の推移は次の通りです。

期	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第1期末（平成19年11月28日）	10,008	10,008	0.8781	0.8781
第2期末（平成20年11月28日）	3,895	3,895	0.4194	0.4194
第3期末（平成21年11月30日）	4,080	4,080	0.5108	0.5108
第4期末（平成22年11月29日）	2,729	2,729	0.5086	0.5086
第5期末（平成23年11月28日）	1,833	1,833	0.4243	0.4243
第6期末（平成24年11月28日）	1,910	1,910	0.5497	0.5497
第7期末（平成25年11月28日）	2,627	2,627	0.9088	0.9088
第8期末（平成26年11月28日）	2,384	2,384	1.0559	1.0559
第9中間期末（平成27年 5月28日）	1,944		1.1205	
平成26年 6月末日	2,450		0.9553	
7月末日	2,405		0.9617	
8月末日	2,388		0.9664	
9月末日	2,367		0.9857	
10月末日	2,273		0.9509	
11月末日	2,384		1.0559	
12月末日	2,246		1.0540	
平成27年 1月末日	2,135		1.0083	
2月末日	2,163		1.0604	
3月末日	2,003		1.0588	
4月末日	1,962		1.0864	
5月末日	1,930		1.1175	
6月末日	1,756		1.0746	

【分配の推移】

期	1口当たりの分配金（円）
第1期	0.0000
第2期	0.0000
第3期	0.0000
第4期	0.0000
第5期	0.0000
第6期	0.0000
第7期	0.0000
第8期	0.0000

【収益率の推移】

期	収益率（％）
第1期	12.2
第2期	52.2
第3期	21.8
第4期	0.4
第5期	16.6
第6期	29.6
第7期	65.3
第8期	16.2
第9期（中間期）	6.1

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配付の額）から、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じて得た数です。

ただし、第1期については、前期末基準価額の代わりに設定時の基準価額（10,000円）を用いております。

（４）【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定及び解約の実績は次の通りです。

期	設定口数（口）	解約口数（口）
第1期	15,059,713,123	3,660,965,546
第2期	180,237,065	2,291,517,133
第3期	78,470,320	1,376,716,960
第4期	9,531,246	2,632,097,797
第5期	12,698,488	1,057,267,626

第6期	6,634,791	852,599,785
第7期	53,668,045	638,953,165
第8期	73,401,335	706,180,086
第9期(中間期)	66,770,280	589,382,536

(注1)上記の数字はすべて本邦内における設定及び解約の実績です。

(注2)第1期の設定口数には、当初募集期間中の販売口数を含みます。

<参考情報>

〔運用実績〕

(2015年6月30日現在)

基準価額・純資産の推移



※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後のものです。

分配の推移

2010年11月	0円
2011年11月	0円
2012年11月	0円
2013年11月	0円
2014年11月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万口当たり、税引前
 ※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

主要な資産の状況

■ポートフォリオの状況

投資対象ファンド	98.7%
テンプレートン・グロース・ファンド	14.4%
テンプレートン・グロース(ユーロ)・ファンド	14.8%
テンプレートン・グロース・ファンドII	69.4%
コール・ローン等	1.3%
計	100.0%

※比率は純資産総額比であり、四捨五入して表示しております。

※コール・ローン等=純資産総額(100%)ー投資対象ファンド

■投資対象ファンドの株式組入上位10銘柄

(投資対象ファンドにおける純資産比)

(2015年6月末日現在(現地))

<テンプレートン・グロース・ファンド>

順位	銘柄名	比率
1	SAMSUNG ELECTRONICS CO LTD	3.1%
2	MICROSOFT CORP	2.9%
3	COMCAST CORP	2.4%
4	CITIGROUP INC	2.4%
5	TEVA PHARMACEUTICAL INDUSTRIES LTD	2.3%
6	PFIZER INC	2.2%
7	CRH PLC	2.0%
8	AMERICAN INTERNATIONAL GROUP INC	2.0%
9	AMGEN INC	1.9%
10	MEDTRONIC PLC	1.9%

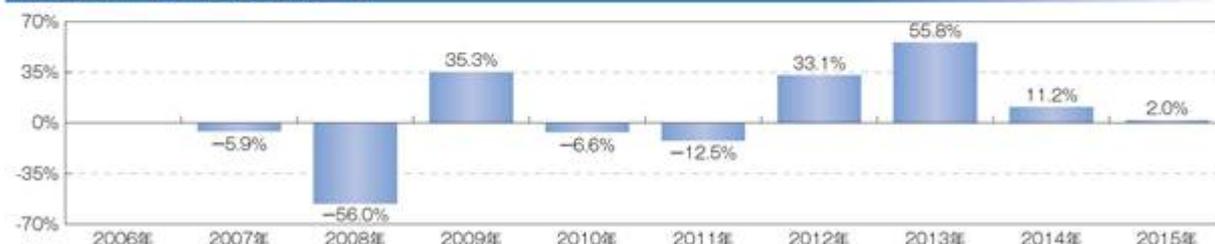
<テンプレートン・グロース(ユーロ)・ファンド>

順位	銘柄名	比率
1	SAMSUNG ELECTRONICS CO LTD	3.0%
2	MICROSOFT CORP	3.0%
3	COMCAST CORP	2.3%
4	CITIGROUP INC	2.3%
5	TEVA PHARMACEUTICAL INDUSTRIES LTD	2.2%
6	PFIZER INC	2.0%
7	AMGEN INC	1.9%
8	ROCHE HOLDING AG	1.9%
9	AMERICAN INTERNATIONAL GROUP INC	1.9%
10	SANOFI	1.8%

<テンプレートン・グロース・ファンドII>

順位	銘柄名	比率
1	SAMSUNG ELECTRONICS CO LTD	3.0%
2	MICROSOFT CORP	2.7%
3	CITIGROUP INC	2.7%
4	TEVA PHARMACEUTICAL INDUSTRIES LTD	2.4%
5	AMERICAN INTERNATIONAL GROUP INC	2.1%
6	COMCAST CORP	2.0%
7	CREDIT SUISSE GROUP AG	2.0%
8	JPMORGAN CHASE & CO	1.9%
9	AMGEN INC	1.9%
10	PFIZER INC	1.8%

年間収益率の推移 (暦年ベース)



※ファンドにベンチマークはありません。

※2007年は設定日(2007年2月23日)から年末まで、2015年は年初から6月末までの収益率を表示しています。

ファンドの運用実績はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
 ファンドの運用状況等は、別途、委託会社のホームページで開示している場合があります。

第3【ファンドの経理状況】

原届出書「第3 ファンドの経理状況 1 財務諸表」につきましては、以下の中間財務諸表が追加されます。

中間財務諸表

(1) 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条の3及び第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。

なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間計算期間（平成26年11月29日から平成27年5月28日まで）の中間財務諸表について、PWCあらた監査法人による中間監査を受けております。

中間財務諸表

templton・グローバル株式ファンド

(1) 【中間貸借対照表】

(単位：円)

	前計算期間末 (平成26年11月28日現在)	当中間計算期間末 (平成27年5月28日現在)
資産の部		
流動資産		
預金	76,391	1,215,098
コール・ローン	45,771,033	28,107,077
投資証券	2,364,704,505	1,919,600,750
未収入金	-	12,366,000
未収利息	12	7
流動資産合計	2,410,551,941	1,961,288,932
資産合計	2,410,551,941	1,961,288,932
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	-	65,500
未払解約金	11,173,642	3,490,986
未払受託者報酬	518,939	453,425
未払委託者報酬	14,400,542	12,582,420
その他未払費用	90,721	79,259
流動負債合計	26,183,844	16,671,590
負債合計	26,183,844	16,671,590
純資産の部		
元本等		
元本	* 1 2,258,056,315	* 1 1,735,444,059
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	126,311,782	209,173,283
(分配準備積立金)	191,615,108	142,481,460
元本等合計	2,384,368,097	1,944,617,342
純資産合計	2,384,368,097	1,944,617,342
負債純資産合計	2,410,551,941	1,961,288,932

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	前中間計算期間		当中間計算期間	
	自	平成25年11月29日 至 平成26年 5月28日	自	平成26年11月29日 至 平成27年 5月28日
営業収益				
受取配当金		4,017,578		8,413,023
受取利息		4,444		1,641
有価証券売買等損益		141,092,259		32,656,634
為替差損益		3,367,882		89,517,696
営業収益合計		148,482,163		130,588,994
営業費用				
受託者報酬		533,640		453,425
委託者報酬		14,808,345		12,582,420
その他費用		158,736		180,660
営業費用合計		15,500,721		13,216,505
営業利益		132,981,442		117,372,489
経常利益		132,981,442		117,372,489
中間純利益		132,981,442		117,372,489
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額		7,407,618		4,574,571
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		263,760,568		126,311,782
剰余金増加額又は欠損金減少額		29,756,642		2,738,196
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		29,756,642		-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		2,738,196
剰余金減少額又は欠損金増加額		2,792,491		32,674,613
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		32,674,613
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		2,792,491		-
分配金		-		-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）		111,222,593		209,173,283

（３）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、投資証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、わが国における対顧客先物売買取場の仲値によって計算しております。
3. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条及び第61条に基づき処理しております。

（中間貸借対照表に関する注記）

項目	前計算期間末 （平成26年11月28日現在）	当中間計算期間末 （平成27年 5月28日現在）
* 1 投資信託財産に係る元本の状況		
期首元本額	2,890,835,066円	2,258,056,315円
期中追加設定元本額	73,401,335円	66,770,280円
期中一部解約元本額	706,180,086円	589,382,536円
2 受益権の総数	2,258,056,315口	1,735,444,059口

（中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

区分	前計算期間末 （平成26年11月28日現在）	当中間計算期間末 （平成27年 5月28日現在）
1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	有価証券 時価の算定方法は「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 デリバティブ取引 該当事項はありません。 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品は短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	有価証券 同左 デリバティブ取引 時価の算定方法は「デリバティブ取引等に関する注記」に記載しております。 上記以外の金融商品 同左

3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、デリバティブ取引における契約額等については、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。</p>	同左
----------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

（デリバティブ取引等に関する注記）

取引の時価等に関する事項

（通貨関連）

前計算期間末（平成26年11月28日現在）

該当事項はありません。

当中間計算期末（平成27年 5月28日現在）

（単位：円）

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建	12,299,500	-	12,365,000	65,500
	米ドル	12,299,500	-	12,365,000	65,500
合計		12,299,500	-	12,365,000	65,500

（注）時価の算定方法

1. 対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

為替予約の受渡日（以下「当該日」という）の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

当該日の対顧客先物売買相場が発表されていない場合は、以下の方法によって評価しております。

- ・当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートにより評価しております。
- ・当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値により評価しております。

2. 対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、対顧客電信売買相場の仲値により評価しております。

（1口当たり情報）

項目	前計算期間末 （平成26年11月28日現在）	当中間計算期間末 （平成27年 5月28日現在）
1口当たり純資産額	1.0559円	1.1205円
(1万口当たり純資産額)	(10,559円)	(11,205円)

< 参考情報 >

当ファンドは、「テンプルトン・グロース・ファンド Advisor Class」（米国籍）、「フランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズ-テンプルトン・グロース（ユーロ）・ファンド I(Ydis)-USD」（ルクセンブルク籍）および「テンプルトン・グロース・ファンド」（ケイマン籍）の各外国投資証券を主要投資対象としております。投資対象ファンドの財務情報は以下の通りです。以下に記載した情報は、現地において作成された入手可能な直近の運用報告書（年次報告書又は半期報告書）を、委託会社において邦訳・抜粋・要約したものです。

なお、以下に記載した情報は、当ファンドの監査の対象外です。

「テンプルトン・グロース・ファンド」（米国籍）

純資産額計算書

区分	2015年2月28日現在
	金額（米ドル）
資産	
有価証券	16,675,546,831
預金	82,904,201
未収入金	15,233,726
未収配当金および未収利息	41,688,499
その他資産	10,355
資産合計	16,815,383,612
負債	
未払金	38,259,955
未払解約金	32,474,315
未払運用報酬等	8,505,412
未払費用及びその他負債	114,945,947
負債合計	194,185,629
純資産額	16,621,197,983

「テンプルトン・グロース・ファンド」の計算期間は、原則として毎年9月1日から翌年8月31日までであり、当ファンドの計算期間とは異なります。

（1口当たり純資産額）

	2015年2月28日現在
Class A	\$ 24.49
Class C	\$ 23.89
Class R	\$ 24.27
Class R6	\$ 24.47
Advisor Class	\$ 24.52

「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズ - テンプレトン・グロース（ユーロ）・
ファンド」（ルクセンブルク籍）

純資産額計算書

区分	2014年12月31日現在
	金額（EUR）
資産	
有価証券	6,654,361,188
預金	308,977,289
短期金融商品	46,065,891
未収入金	8,050,038
未収利息および未収配当金	12,251,077
その他未収入金	1,804,993
資産合計	7,031,510,476
負債	
未払金	1,146,378
未払解約金	6,149,177
未払運用報酬等	5,791,887
その他未払金	5,764,849
負債合計	18,852,291
純資産額	7,012,658,185

「テンプレトン・グロース（ユーロ）・ファンド」の計算期間は、原則として毎年7月1日から翌年6月30日までであり、当ファンドの計算期間とは異なります。

（1口当たり純資産額）

	2014年12月31日現在
A (acc) EUR	EUR 15.14
A (acc) USD	USD 18.33
A (Ydis) EUR	EUR 15.57
A (Ydis) USD	USD 18.79
B (Ydis) EUR	EUR 10.60
I (acc) EUR	EUR 16.95
I (Ydis) EUR	EUR 14.65
I (Ydis) USD	USD 17.82
N (acc) EUR	EUR 13.52

「テンプルトン・グロース・ファンド」（ケイマン籍）

純資産額計算書

区分	2015年2月28日現在
	金額（米ドル）
資産	
有価証券	12,595,856
預金	370,686
外貨預金	11,667
未収入金	12,838
未収配当金	24,692
資産合計	13,015,739
負債	
未払金	30,647
未払解約金	100,000
未払運用報酬等	3,114
未払費用及びその他負債	161,610
負債合計	295,371
純資産額	12,720,368

「テンプルトン・グロース・ファンド」の計算期間は、原則として毎年9月1日から翌年8月31日までであり、当ファンドの計算期間とは異なります。

（1口当たり純資産額）

2015年2月28日現在
\$ 10.96

2【ファンドの現況】

<更新後>

【純資産額計算書】

(平成27年 6月30日現在)

資産総額	1,764,904,526円
負債総額	8,136,322円
純資産総額 (-)	1,756,768,204円
発行済口数	1,634,823,879口
1口当たり純資産額 (/)	1.0746円

<参考情報>

投資対象ファンドの現況は以下の通りです。以下に記載した現況は、現地において作成された入手可能な直近の運用報告書（年次報告書又は半期報告書）を、委託会社において邦訳・抜粋・要約したものであります。

「templton・グロース・ファンド」（米国籍）

(2015年 2月28日現在)

資産総額	\$ 16,815,383,612
負債総額	\$ 194,185,629
純資産総額 (-)	\$ 16,621,197,983
Class A	\$ 12,979,248,466
Class C	\$ 828,193,690
Class R	\$ 140,280,645
Class R6	\$ 2,249,330,845
Advisor Class	\$ 424,144,337
発行済口数	
Class A	530,027,148
Class C	34,672,268
Class R	5,780,775
Class R6	91,905,557
Advisor Class	17,297,005
1口当たり純資産額 (/)	
Class A	\$ 24.49
Class C	\$ 23.89
Class R	\$ 24.27
Class R6	\$ 24.47
Advisor Class	\$ 24.52

「templton・グロース・ファンド」の計算期間は、原則として毎年9月1日から翌年8月31日までであり、当ファンドの計算期間とは異なります。

「フランクリン・templton・インベストメント・ファンズ - templton・グロース（ユーロ）・ファンド」（ルクセンブルク籍）

(2014年12月31日現在)

資産総額	EUR 7,031,510,476
負債総額	EUR 18,852,291
純資産総額 (-)	EUR 7,012,658,185
発行済口数	
A(acc) EUR	409,089,262.154
A(acc) USD	17,427,976.137
A(Ydis) EUR	16,068,008.383
A(Ydis) USD	1,701,040.700
B(Ydis) EUR	82,046.318
I(acc) EUR	12,267,658.793
I(Ydis) EUR	2,412,826.977
I(Ydis) USD	429,703.779
N(acc) EUR	2,217,484.410
1口当たり純資産額 (/)	
A(acc) EUR	EUR 15.14
A(acc) USD	USD 18.33
A(Ydis) EUR	EUR 15.57
A(Ydis) USD	USD 18.79
B(Ydis) EUR	EUR 10.60
I(acc) EUR	EUR 16.95
I(Ydis) EUR	EUR 14.65
I(Ydis) USD	USD 17.82
N(acc) EUR	EUR 13.52

「テンブルトン・グロース(ユーロ)・ファンド」の計算期間は、原則として毎年7月1日から翌年6月30日までであり、当ファンドの計算期間とは異なります。

「テンブルトン・グロース・ファンド」(ケイマン籍)

(2015年2月28日現在)

資産総額	\$ 13,015,739
負債総額	\$ 295,371
純資産総額 (-)	\$ 12,720,368
発行済口数	1,160,869
1口当たり純資産額 (/)	\$ 10.96

「テンブルトン・グロース・ファンド」の計算期間は、原則として毎年9月1日から翌年8月31日までであり、当ファンドの計算期間とは異なります。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

< 訂正前 >

(1) 資本金の額（平成26年12月末日現在）

資本金	490,000千円
発行する株式の総数	78,400株
発行済株式総数	43,580株

< 最近5年間における資本金の額の増減 >

年月日	増減
平成22年10月27日	245,000千円の減資
平成22年10月27日	245,000千円の増資
平成23年5月25日	210,000千円の減資
平成23年5月25日	210,000千円の増資
平成23年10月26日	225,000千円の減資
平成23年10月26日	225,000千円の増資
平成24年3月28日	175,000千円の減資
平成24年3月28日	175,000千円の増資
平成24年9月26日	380,000千円の減資
平成24年9月26日	380,000千円の増資
平成25年6月26日	454,000千円の減資
平成25年6月26日	454,000千円の増資

< 訂正後 >

(1) 資本金の額（平成27年6月末日現在）

資本金	490,000千円
発行する株式の総数	78,400株
発行済株式総数	43,580株

< 最近5年間における資本金の額の増減 >

年月日	増減
平成22年10月27日	245,000千円の減資
平成22年10月27日	245,000千円の増資
平成23年5月25日	210,000千円の減資
平成23年5月25日	210,000千円の増資
平成23年10月26日	225,000千円の減資
平成23年10月26日	225,000千円の増資
平成24年3月28日	175,000千円の減資
平成24年3月28日	175,000千円の増資
平成24年9月26日	380,000千円の減資
平成24年9月26日	380,000千円の増資

平成25年6月26日	454,000千円の減資
平成25年6月26日	454,000千円の増資

2【事業の内容及び営業の概況】

<更新後>

委託会社であるフランクリン・templton・インベストメンツ株式会社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社として、証券投資信託の設定を行うとともに、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用(投資運用業)等を行っています。また、「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業に係る業務の一部および投資助言業務等の関連する業務を行っています。

平成27年6月末日現在、委託会社が運用している証券投資信託は、追加型株式投資信託5本、親投資信託1本で、親投資信託を除いた純資産総額の合計は54,582,874,956円です。

3【委託会社等の経理状況】

<更新後>

1. 委託会社であるフランクリン・テンプルトン・インベストメンツ株式会社（以下「当社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の規定により「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条及び第57条の規定により「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

財務諸表および中間財務諸表に記載している金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第19期事業年度（平成25年10月1日から平成26年9月30日まで）の財務諸表について、あらた監査法人の監査を受けております。

また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第20期事業年度の中間会計期間（平成26年10月1日から平成27年3月31日まで）の中間財務諸表について、あらた監査法人の中間監査を受けております。

財務諸表

(1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	第18期 (平成25年9月30日)	第19期 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	877,820	419,312
前払費用	8,621	6,222
未収入金	14,847	99,659
未収委託者報酬	52,718	53,995
未収運用受託報酬	20,398	19,774
一年内返済予定長期差入保証金	51,420	-
その他流動資産	4,246	6,047
流動資産合計	1,030,073	605,011
固定資産		
有形固定資産		
建物付属設備	3,421	101,402
器具備品	20,375	50,199
建設仮勘定	3,500	-
有形固定資産合計	* 1 27,296	* 1 151,602
投資その他の資産		
長期差入保証金	85,202	59,573
その他	-	628
投資その他の資産合計	85,202	60,202
固定資産合計	112,498	211,804
資産合計	1,142,572	816,815
負債の部		
流動負債		
預り金	6,988	6,426
未払収益分配金	1,090	630
未払手数料	39,219	40,278
その他未払金	* 2 136,331	* 2 133,256
未払費用	37,752	58,494
未払法人税等	2,505	1,239
資産除去債務	12,300	-
流動負債合計	236,189	240,325
固定負債		
資産除去債務	-	28,531
固定負債合計	-	28,531
負債合計	236,189	268,857
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,000	490,000
資本剰余金		
資本準備金	654,727	416,383

その他資本剰余金	454,000	-
資本剰余金合計	1,108,727	416,383
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	692,344	358,425
利益剰余金合計	692,344	358,425
株主資本合計	906,383	547,958
純資産合計	906,383	547,958
負債純資産合計	1,142,572	816,815

（２）【損益計算書】

（単位：千円）

	第18期 （自 平成24年10月1 日 至 平成25年9月30 日）	第19期 （自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日）
営業収益		
委託者報酬	467,872	448,216
運用受託報酬	66,685	57,546
業務受託報酬	-	320,665
その他営業収益	98,080	83,442
営業収益計	632,639	909,870
営業費用		
支払手数料	333,168	362,331
広告宣伝費	414	2,449
公告費	1,325	590
調査費	72,366	42,512
図書費	608	522
委託計算費	10,251	9,564
通信費	8,364	11,035
印刷費	25,619	21,706
諸会費	2,395	2,254
販売促進費	6,034	7,627
営業費用計	460,550	460,593
一般管理費		
役員報酬	57,674	55,508
給料・手当	255,483	242,099
賞与	53,421	61,271
その他給与	5,375	3,151
法定福利費	32,279	26,409
退職給付費用	6,286	5,603
交際費	2,156	2,397
旅費交通費	8,521	9,446
租税公課	9,653	3,405
福利厚生費	2,915	855
事務委託費	154,743	195,443
不動産賃貸料	90,456	82,460
固定資産減価償却費	22,758	15,152
諸経費	86,459	78,610
一般管理費計	788,186	781,815
営業損失（ ）	616,097	332,538
営業外収益		
受取利息	101	76
為替差益	-	5,996
その他	28	21
営業外収益合計	130	6,094

営業外費用		
為替差損	30,146	-
その他	-	38
営業外費用合計	30,146	38
経常損失()	646,113	326,482
特別利益		
投資有価証券売却益	216	-
特別利益合計	216	-
特別損失		
特別退職金	45,237	-
役員退職慰労金	-	23,979
固定資産除却損	-	6,753
特別損失合計	45,237	30,732
税引前当期純損失()	691,134	357,215
法人税、住民税及び事業税	1,210	1,210
法人税等合計	1,210	1,210
当期純損失()	692,344	358,425

（３）【株主資本等変動計算書】

第18期（自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本						株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計	
当期首残高	490,000	907,400	380,000	1,287,400	1,086,673	1,086,673	690,727
当期変動額							
資本金の取崩	454,000		454,000	454,000			
新株の発行	454,000	454,000		454,000			908,000
資本準備金の取崩		706,673	706,673				
損失の処理に伴うその 他資本剰余金からその 他利益剰余金への振替			1,086,673	1,086,673	1,086,673	1,086,673	
当期純損失					692,344	692,344	692,344
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計		252,673	74,000	178,673	394,329	394,329	215,655
当期末残高	490,000	654,727	454,000	1,108,727	692,344	692,344	906,383

	評価・換算差額等		純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	136	136	690,590
当期変動額			
資本金の取崩			
新株の発行			908,000
資本準備金の取崩			
損失の処理に伴うその 他資本剰余金からその 他利益剰余金への振替			
当期純損失			692,344
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	136	136	136
当期変動額合計	136	136	215,792
当期末残高			906,383

第19期（自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本						株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計	
当期首残高	490,000	654,727	454,000	1,108,727	692,344	692,344	906,383
当期変動額							
資本準備金の取崩		238,344	238,344				
損失の処理に伴うその他 資本剰余金からその他利 益剰余金への振替			692,344	692,344	692,344	692,344	
当期純損失					358,425	358,425	358,425
当期変動額合計		238,344	454,000	692,344	333,918	333,918	358,425
当期末残高	490,000	416,383		416,383	358,425	358,425	547,958

	評価・換算差額等		純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高			906,383
当期変動額			
資本準備金の取崩			
損失の処理に伴うその他 資本剰余金からその他利 益剰余金への振替			
当期純損失			358,425
当期変動額合計			358,425
当期末残高			547,958

（重要な会計方針）

1．固定資産の減価償却の方法	有形固定資産 定額法により償却しております。
2．外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
3．その他財務諸表作成のための重要な事項	消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

注記事項

(貸借対照表関係)

第18期 (平成25年9月30日)	第19期 (平成26年9月30日)												
<p>* 1 有形固定資産の減価償却累計額は次の通りであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">建物付属設備</td> <td style="text-align: right;">75,628千円</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td style="text-align: right;">59,319千円</td> </tr> </table> <p>* 2 関係会社項目 関係会社に対する資産及び負債には次のものがあります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">流動負債 その他未払金</td> <td style="text-align: right;">16,183千円</td> </tr> </table>	建物付属設備	75,628千円	器具備品	59,319千円	流動負債 その他未払金	16,183千円	<p>* 1 有形固定資産の減価償却累計額は次の通りであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">建物付属設備</td> <td style="text-align: right;">7,028千円</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td style="text-align: right;">19,275千円</td> </tr> </table> <p>* 2 関係会社項目 関係会社に対する資産及び負債には次のものがあります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">流動負債 その他未払金</td> <td style="text-align: right;">15,656千円</td> </tr> </table>	建物付属設備	7,028千円	器具備品	19,275千円	流動負債 その他未払金	15,656千円
建物付属設備	75,628千円												
器具備品	59,319千円												
流動負債 その他未払金	16,183千円												
建物付属設備	7,028千円												
器具備品	19,275千円												
流動負債 その他未払金	15,656千円												

(株主資本等変動計算書関係)

第18期(自平成24年10月1日至平成25年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	34,500	9,080	-	43,580
合計	34,500	9,080	-	43,580

(注) 自己株式について、該当事項はありません。

(注) 当事業年度増加株式数は、平成25年6月26日払込の株主割当増資に伴う新株式発行9,080株によるものです。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

第19期(自平成25年10月1日至平成26年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	43,580	-	-	43,580
合計	43,580	-	-	43,580

(注) 自己株式について、該当事項はありません。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

（リース取引関係）

1. ファイナンス・リース取引

該当事項はありません。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

（単位：千円）

	第18期 （平成25年9月30日）	第19期 （平成26年9月30日）
1年内	47,308	59,573
1年超	282,974	223,401
合計	330,283	282,974

（金融商品関係）

第18期（自平成24年10月1日 至 平成25年9月30日）

1. 金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に関する取組方針

当社の資本は本来の事業目的のために使用することを基本とし、資金の運用については自社が運用する投資信託への投資に限定し、資産運用リスクを極力最小限に留めることを基本方針としております。また、資金調達については関係会社からの新株発行によっております。

（2）金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である未収運用受託報酬及び未収委託者報酬に係る信用リスクは、極めて限定的であると判断しております。また、営業債権債務の一部には外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、当該営業債権債務の残高及び為替の変動による影響を定期的にモニタリングすることで管理しております。

投資有価証券は全て投資信託であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、日々基準価額の変動をモニタリングすることで管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成25年9月30日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

	貸借対照表計上額 （千円）	時価（千円）	差額（千円）
資産			
（1）現金・預金	877,820	877,820	-
（2）未収入金	14,847	14,847	-
（3）未収委託者報酬	52,718	52,718	-
（4）未収運用受託報酬	20,398	20,398	-

(5) 一年内返済予定長期差入保証金	51,420	51,420	-
(6) 長期差入保証金	59,573	50,548	9,025
資産計	1,076,779	1,067,754	9,025
負債			
(1) 未払手数料	39,219	39,219	-
(2) その他未払金	136,331	136,331	-
(3) 未払費用	37,752	37,752	-
負債計	213,304	213,304	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

- (1) 現金・預金、(2) 未収入金、(3) 未収委託者報酬及び(4) 未収運用受託報酬及び(5) 一年内返済予定長期差入保証金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (6) 長期差入保証金

敷金の時価の算定は、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に当該建物の賃貸借契約期間を加味した利率で割り引いた現在価値より算定しております。

負債

- (1) 未払手数料、(2) その他未払金及び(3) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

長期差入保証金

長期差入保証金(貸借対照表計上額85,202千円)のうち、営業保証金(貸借対照表計上額25,628千円)については、返還時期の想定を行うことが難しく、将来キャッシュフローを見積もることができないため、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(6) 長期差入保証金」には含めておりません。

(注) 3. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金・預金	877,820	-	-	-
未収入金	14,847	-	-	-
未収委託者報酬	52,718	-	-	-
未収運用受託報酬	20,398	-	-	-
一年内返済予定長期差入保証金	51,420	-	-	-
長期差入保証金	-	-	-	59,573
合計	1,017,205	-	-	59,573

第19期(自平成25年10月1日至平成26年9月30日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に関する取組方針

当社の資本は本来の事業目的のために使用することを基本とし、資金の運用については自社が運用する投資信託への投資に限定し、資産運用リスクを極力最小限に留めることを基本方針としております。また、資金調達については関係会社からの新株発行によっております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である未収運用受託報酬及び未収委託者報酬に係る信用リスクは、極めて限定的であると判断しております。また、営業債権債務の一部には外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、当該営業債権債務の残高及び為替の変動による影響を定期的にモニタリングすることで管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成26年9月30日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
資産			
(1) 現金・預金	419,312	419,312	-
(2) 未収入金	99,659	99,659	-
(3) 未収委託者報酬	53,995	53,995	-
(4) 未収運用受託報酬	19,774	19,774	-
(5) 長期差入保証金	59,573	53,173	6,400
資産計	652,314	645,914	6,400
負債			
(1) 未払手数料	40,278	40,278	-
(2) その他未払金	133,256	133,256	-
(3) 未払費用	58,494	58,494	-
負債計	232,029	232,029	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金・預金、(2) 未収入金、(3) 未収委託者報酬、及び(4) 未収運用受託報酬
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 長期差入保証金

敷金の時価の算定は、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に当該建物の賃貸借契約期間を加味した利率で割り引いた現在価値より算定しております。

負債

(1) 未払手数料、(2) その他未払金及び(3) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注) 2. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金・預金	419,312	-	-	-
未収入金	99,659	-	-	-
未収委託者報酬	53,995	-	-	-
未収運用受託報酬	19,774	-	-	-

長期差入保証金	-	-	-	59,573
合計	592,741	-	-	59,573

(有価証券関係)

第18期(平成25年9月30日)

1. 当事業年度中に売却したその他有価証券(自平成24年10月1日 至平成25年9月30日)

売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
1,227	216	-

第19期(平成26年9月30日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

第18期 (自平成24年10月1日 至平成25年9月30日)	第19期 (自平成25年10月1日 至平成26年9月30日)
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（退職給付関係）

第18期 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	第19期 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)												
<p>採用している退職給付制度の概要</p> <p>当社は総合設立型厚生年金基金制度を採用しております。要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。</p> <p>(1) 制度全体の積立状況に関する事項 (平成25年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">年金資産の額</td> <td style="text-align: right;">31,529百万円</td> </tr> <tr> <td>年金財政計算上の給付債務の額</td> <td style="text-align: right;">29,982百万円</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,547百万円</td> </tr> </table> <p>(2) 制度全体に占める当社の掛金拠出割合 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)</p> <p style="text-align: right;">0.37%</p> <p>(3) 補足説明</p> <p>上記(1)の差引額の主な原因は、繰越余剰金1,547百万円であります。</p> <p>* なお、上記の数値については、入手可能な直近時点の年金財政計算に基づいて開示しております。</p>	年金資産の額	31,529百万円	年金財政計算上の給付債務の額	29,982百万円	差引額	1,547百万円	<p>採用している退職給付制度の概要</p> <p>当社は総合設立型厚生年金基金制度を採用しております。要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。</p> <p>(1) 制度全体の積立状況に関する事項 (平成26年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">年金資産の額</td> <td style="text-align: right;">36,077百万円</td> </tr> <tr> <td>年金財政計算上の給付債務の額</td> <td style="text-align: right;">33,948百万円</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,128百万円</td> </tr> </table> <p>(2) 制度全体に占める当社の掛金拠出割合 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)</p> <p style="text-align: right;">0.32%</p> <p>(3) 補足説明</p> <p>上記(1)の差引額の主な原因は、繰越余剰金2,128百万円であります。</p> <p>* なお、上記の数値については、入手可能な直近時点の年金財政計算に基づいて開示しております。</p>	年金資産の額	36,077百万円	年金財政計算上の給付債務の額	33,948百万円	差引額	2,128百万円
年金資産の額	31,529百万円												
年金財政計算上の給付債務の額	29,982百万円												
差引額	1,547百万円												
年金資産の額	36,077百万円												
年金財政計算上の給付債務の額	33,948百万円												
差引額	2,128百万円												

（税効果関係）

第18期 (平成25年9月30日)	第19期 (平成26年9月30日)																																																																
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>繰延税金資産</td><td></td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">1,417,061</td></tr> <tr><td>未払金</td><td style="text-align: right;">28,445</td></tr> <tr><td>未払費用</td><td style="text-align: right;">9,586</td></tr> <tr><td>資産除去債務</td><td style="text-align: right;">4,383</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">5,486</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">1,464,963</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">1,464,909</td></tr> <tr><td>繰延税金負債との相殺</td><td style="text-align: right;">53</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>繰延税金負債</td><td></td></tr> <tr><td>資産除去債務に対応する除去費用</td><td style="text-align: right;">53</td></tr> <tr><td>繰延税金負債小計</td><td style="text-align: right;">53</td></tr> <tr><td>繰延税金資産との相殺</td><td style="text-align: right;">53</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p>当事業年度は税引前当期純損失を計上しているため、記載しておりません。</p>	繰延税金資産		繰越欠損金	1,417,061	未払金	28,445	未払費用	9,586	資産除去債務	4,383	その他	5,486	繰延税金資産小計	1,464,963	評価性引当額	1,464,909	繰延税金負債との相殺	53	繰延税金資産合計	0	繰延税金負債		資産除去債務に対応する除去費用	53	繰延税金負債小計	53	繰延税金資産との相殺	53	繰延税金負債合計	0	繰延税金資産の純額	0	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>繰延税金資産</td><td></td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">1,538,972</td></tr> <tr><td>未払金</td><td style="text-align: right;">37,409</td></tr> <tr><td>未払費用</td><td style="text-align: right;">21,995</td></tr> <tr><td>資産除去債務</td><td style="text-align: right;">10,168</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">27</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">1,608,519</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">1,599,298</td></tr> <tr><td>繰延税金負債との相殺</td><td style="text-align: right;">9,220</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>繰延税金負債</td><td></td></tr> <tr><td>資産除去債務に対応する除去費用</td><td style="text-align: right;">9,220</td></tr> <tr><td>繰延税金負債小計</td><td style="text-align: right;">9,220</td></tr> <tr><td>繰延税金資産との相殺</td><td style="text-align: right;">9,220</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p>当事業年度は税引前当期純損失を計上しているため、記載しておりません。</p>	繰延税金資産		繰越欠損金	1,538,972	未払金	37,409	未払費用	21,995	資産除去債務	10,168	その他	27	繰延税金資産小計	1,608,519	評価性引当額	1,599,298	繰延税金負債との相殺	9,220	繰延税金資産合計	0	繰延税金負債		資産除去債務に対応する除去費用	9,220	繰延税金負債小計	9,220	繰延税金資産との相殺	9,220	繰延税金負債合計	0	繰延税金資産の純額	0
繰延税金資産																																																																	
繰越欠損金	1,417,061																																																																
未払金	28,445																																																																
未払費用	9,586																																																																
資産除去債務	4,383																																																																
その他	5,486																																																																
繰延税金資産小計	1,464,963																																																																
評価性引当額	1,464,909																																																																
繰延税金負債との相殺	53																																																																
繰延税金資産合計	0																																																																
繰延税金負債																																																																	
資産除去債務に対応する除去費用	53																																																																
繰延税金負債小計	53																																																																
繰延税金資産との相殺	53																																																																
繰延税金負債合計	0																																																																
繰延税金資産の純額	0																																																																
繰延税金資産																																																																	
繰越欠損金	1,538,972																																																																
未払金	37,409																																																																
未払費用	21,995																																																																
資産除去債務	10,168																																																																
その他	27																																																																
繰延税金資産小計	1,608,519																																																																
評価性引当額	1,599,298																																																																
繰延税金負債との相殺	9,220																																																																
繰延税金資産合計	0																																																																
繰延税金負債																																																																	
資産除去債務に対応する除去費用	9,220																																																																
繰延税金負債小計	9,220																																																																
繰延税金資産との相殺	9,220																																																																
繰延税金負債合計	0																																																																
繰延税金資産の純額	0																																																																

（資産除去債務関係）

第18期

（平成25年9月30日）

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

（1）当該資産除去債務の概要

本社建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

（2）当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間が平成25年12月末までと短期間であるため、割引率による割引は行わず、資産除去債務の金額を計算しております。

（3）当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	8,797千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	-
時の経過による調整額	-
資産除去債務の履行による減少額	-
見積りの変更による影響額	3,503千円
期末残高	12,300千円

第19期

（平成26年9月30日）

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

（1）当該資産除去債務の概要

本社建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

（2）当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年と見積り、割引率は1.12%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

（3）当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	12,300千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	28,137千円
時の経過による調整額	394千円
資産除去債務の履行による減少額	12,300千円
見積りの変更による影響額	-
期末残高	28,531千円

（セグメント情報等）

第18期（自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日）

1．セグメント情報

当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載しておりません。

2．関連情報

（1）製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービスはアセットマネジメント業として単一であるため、記載しておりません。

（2）地域ごとの情報

営業収益

（単位：千円）

日本	英国	その他	合計
521,813	76,585	34,240	632,639

（注）営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

有形固定資産

国内に所在している有形固定資産の額が貸借対照表の有形固定資産の額の90%超であるため、記載を省略しております。

（3）主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の氏名又は名称	売上高
フランクリン テンプレトン インベストメント マネジメント リミテッド	76,585

第19期（自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日）

1．セグメント情報

当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載しておりません。

2．関連情報

（1）製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービスはアセットマネジメント業として単一であるため、記載しておりません。

（2）地域ごとの情報

営業収益

（単位：千円）

日本	ルクセンブルグ	米国	その他	合計
505,763	236,574	100,811	66,721	909,870

（注）営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

有形固定資産

国内に所在している有形固定資産の額が貸借対照表の有形固定資産の額の90%超であるため、記載を省略しております。

（3）主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の氏名又は名称	売上高
フランクリン テンプレトン インターナショナル サービス S . A . R . L	236,574
フランクリン テンプレトン カンパニーズ エルエルシー	95,487

（関連当事者情報）

第18期（自 平成24年10月1日 至 平成25年 9月30日）

1．関連当事者との取引

（ア）財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
親会社	フランクリン リソーシズ インク	アメリカ合衆国デラウェア州	63,091千米ドル	銀行持株会社 社法上の持株会社	(被所有) 間接 100%	業務委託関係	本部共通経費の支払	18,480	その他未払金	16,183
親会社	テンプルトン インターナショナル インク	アメリカ合衆国デラウェア州	0米ドル	銀行持株会社 社法上の持株会社	(被所有) 間接 100%	業務委託関係	本部共通経費の支払	8,417	-	-
親会社	フランクリン・テンプルトン・キャピタル・ホールディングス・プライベート・リミテッド	シンガポール	196,359千シンガポールドル	銀行持株会社 社法上の持株会社	(被所有) 直接 100%	役員の兼任	増資の引受	908,000	-	-

(注) 1．上記金額のうち、取引金額及び期末残高には消費税が含まれておりません。

2．取引条件及び取引条件の決定方針等

本部共通経費の支払については、当業務に関する役務提供割合を勘案して合理的な金額を支払っております。

（イ）財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
同一の親会社を持つ会社	フランクリン テンプルトン カンパニーズ エルエルシー	アメリカ合衆国デラウェア州	100米ドル	一般業務委託請負会社	無し	業務委託関係	総務・経理・インフォメーションテクノロジー業務等の委託	152,107	その他未払金	16,011
同一の親会社を持つ会社	フランクリン テンプルトン インベストメント マネジメント リミテッド	英国	3,000千ポンド	資産運用会社	無し	業務委託関係	委託代行業務の受任	76,585	未収入金	6,424
同一の親会社を持つ会社	フランクリン テンプルトン インベストメントス（ブラジル）エルティエーダ	ブラジル	617千リアル	資産運用会社	無し	業務委託関係	委託代行業務の受任	7,069	未収入金	3,213
同一の親会社を持つ会社	テンプルトン アセット マネジメント リミテッド	シンガポール	174,258千シンガポールドル	資産運用会社	無し	業務委託関係	委託代行業務の受任	9,295	未収入金	983

(注) 1．上記金額のうち、取引金額及び期末残高には消費税が含まれておりません。

2．取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) 総務・経理・インフォメーションテクノロジー業務等の委託については、グローバルサービスフィー契約に基づいて算出された業務委託料金を支払っております。
- (2) 委託代行業務の受任については、委託代行業務契約に基づいて算出された委託代行業務報酬を受領しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

フランクリン リソーシズ インク（ニューヨーク証券取引所に上場）

テンプレトン ワールドワイド インク（非上場）

テンプレトン インターナショナル インク（非上場）

フランクリン・テンプレトン・キャピタル・ホールディングス・プライベート・リミテッド（非上場）

第19期（自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日）

1. 関連当事者との取引

(ア) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
親会社	フランクリン リソーシズ インク	アメリカ合衆国デラウェア州	62,289千米ドル	銀行持株会社法上の持株会社	(被所有) 間接 100%	業務委託関係	本部共通経費の支払	16,197	その他未払金	15,656

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額及び期末残高には消費税が含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

本部共通経費の支払については、当業務に関する役務提供割合を勘案して合理的な金額を支払っております。

(イ) 財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
同一の親会社を持つ会社	フランクリン テンプレトン カンパニーズ エルエルシー	アメリカ合衆国デラウェア州	100米ドル	一般業務委託請負会社	無し	業務委託関係	業務の受託	95,487	未収入金	35,295
							総務・経理・インフォメーションテクノロジー業務等の委託	195,443	その他未払金	33,549
同一の親会社を持つ会社	フランクリン テンプレトン インターナショナル サービス S.A. R.L	ルクセンブルグ	3,961千ユーロ	資産運用会社	無し	業務委託関係	業務の受託	236,574	未収入金	57,288
							業務の委託	15,711	その他未払金	2,943

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額及び期末残高には消費税が含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 業務受託報酬については、当社が提供する役務に係る人件費、システム利用料等の経費相当額に基づいて算出しております。

(2) 総務・経理・インフォメーションテクノロジー業務等の委託については、グローバルサービスフィー契約に基づいて算出された業務委託料金を支払っております。

(3) 業務委託報酬については、当社に提供される役務に係る人件費、システム利用料等の経費相当額に基づいて算出されております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

フランクリン リソーシズ インク（ニューヨーク証券取引所に上場）

templton ワールドワイド インク（非上場）

templton インターナショナル インク（非上場）

フランクリン・templton・キャピタル・ホールディングス・プライベート・リミテッド（非上場）

（ 1株当たり情報）

第18期 （自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日）		第19期 （自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日）	
1株当たり純資産額	20,798円15銭	1株当たり純資産額	12,573円61銭
1株当たり当期純損失金額（注）	18,756円11銭	1株当たり当期純損失金額（注）	8,224円53銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式の発行が無いため、記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式の発行が無いため、記載しておりません。	

（注）1株当たり当期純利益金額の算定の基礎は、以下の通りであります。

	第18期 （自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日）	第19期 （自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日）
当期純損失（ ）（千円）	692,344	358,425
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純損失（ ）（千円）	692,344	358,425
期中平均株式数（株）	36,913	43,580

[次へ](#)

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

		第20期中間会計期間 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金		403,720
前払費用		8,273
未収入金		107,028
未収委託者報酬		59,460
未収運用受託報酬		44,052
その他流動資産		3
流動資産合計		622,538
固定資産		
有形固定資産		
建物付属設備		98,321
器具備品		46,441
有形固定資産合計	* 1	144,762
投資その他の資産		
長期差入保証金		59,573
その他		628
投資その他の資産合計		60,202
固定資産合計		204,964
資産合計		827,503
負債の部		
流動負債		
預り金		6,630
未払収益分配金		660
未払手数料		44,581
その他未払金		37,367
未払費用		71,494
未払法人税等		3,221
未払消費税等		1,723
賞与引当金		21,411
流動負債合計		187,091
固定負債		
資産除去債務		28,691
固定負債合計		28,691
負債合計		215,782
純資産の部		
株主資本		
資本金		490,000
資本剰余金		
資本準備金		57,958
資本剰余金合計		57,958

利益剰余金	
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	63,762
利益剰余金合計	63,762
株主資本合計	611,720
純資産合計	611,720
負債純資産合計	827,503

(2) 中間損益計算書

(単位 : 千円)

		第20期中間会計期間
		(自 平成26年10月1日
		至 平成27年3月31日)
営業収益		
委託者報酬		217,544
運用受託報酬		49,066
業務受託報酬		415,590
その他営業収益		74,810
営業収益計		757,011
営業費用及び一般管理費	* 1	696,882
営業利益		60,129
営業外収益	* 2	5,140
営業外費用		82
経常利益		65,188
特別損失	* 3	124
税引前中間純利益		65,063
法人税、住民税及び事業税		1,300
法人税等合計		1,300
中間純利益		63,762

(3) 中間株主資本等変動計算書

第20期中間会計期間(自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本							純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本 合計	
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計		
当期首残高	490,000	416,383		416,383	358,425	358,425	547,958	547,958
当中間期変動額								
資本準備金の取崩		358,425	358,425					
損失の処理に伴うその他 資本剰余金からその他利 益剰余金への振替			358,425	358,425	358,425	358,425		
中間純利益					63,762	63,762	63,762	63,762
当中間期変動額合計		358,425		358,425	422,187	422,187	63,762	63,762
当中間期末残高	490,000	57,958		57,958	63,762	63,762	611,720	611,720

重要な会計方針

項目	第20期中間会計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日)
1. 固定資産の減価償却の方法	有形固定資産 定額法により償却しております。
2. 引当金の計上基準	賞与引当金 従業員に対する賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額の当中間会計期間における負担額を計上しております。
3. 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
4. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

注記事項

(中間貸借対照表関係)

項目	第20期中間会計期間 (平成27年3月31日)	
* 1 有形固定資産の減価償却累計額	建物付属設備	10,642千円
	器具備品	21,122千円

(中間損益計算書関係)

項目	第20期中間会計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)	
* 1 減価償却実施額	有形固定資産	7,247千円
* 2 営業外収益の主要項目	受取利息	38千円
	為替差益	5,102千円
* 3 特別損失の主要項目	固定資産除却損	124千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

第20期中間会計期間(自平成26年10月1日至平成27年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当中間会計期間 増加株式数(株)	当中間会計期間 減少株式数(株)	当中間会計期間末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	43,580	-	-	43,580
合計	43,580	-	-	43,580

(注)自己株式について、該当事項はありません。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

（リース取引関係）

１．ファイナンス・リース取引

該当事項はありません。

２．オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

（単位：千円）

	第20期中間会計期間 (平成27年3月31日)
1年内	59,573
1年超	193,614
合計	253,187

（金融商品関係）

第20期中間会計期間（平成27年3月31日）

金融商品の時価等に関する事項

平成27年3月31日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

	中間貸借対照表 計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
資産			
(1) 現金・預金	403,720	403,720	-
(2) 未収入金	107,028	107,028	-
(3) 未収委託者報酬	59,460	59,460	-
(4) 未収運用受託報酬	44,052	44,052	-
(5) 長期差入保証金	59,573	55,070	4,503
資産計	673,835	669,331	4,503
負債			
(1) 未払手数料	44,581	44,581	-
(2) その他未払金	37,367	37,367	-
(3) 未払費用	71,494	71,494	-
負債計	153,443	153,443	-

（注）１．金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金・預金、(2) 未収入金、(3) 未収委託者報酬及び(4) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 長期差入保証金

敷金の時価の算定は、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に当該建物の賃貸借契約期間を加味した利率で割り引いた現在価値より算定しております。

負債

(1) 未払手数料、(2) その他未払金及び(3) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

（有価証券関係）

第20期中間会計期間 （平成27年3月31日）
該当事項はありません。

（デリバティブ取引関係）

第20期中間会計期間 （平成27年3月31日）
該当事項はありません。

（資産除去債務関係）

第20期中間会計期間 （平成27年3月31日）												
資産除去債務のうち中間貸借対照表に計上しているもの 当中間会計期間における当該資産除去債務の総額の増減												
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">当事業年度期首残高</td> <td style="text-align: right;">28,531千円</td> </tr> <tr> <td>有形固定資産の取得に伴う増加額</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td>時の経過による調整額</td> <td style="text-align: right;">159千円</td> </tr> <tr> <td>資産除去債務の履行による減少額</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td>見積りの変更による影響額</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td>当中間会計期間末残高</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">28,691千円</td> </tr> </table>	当事業年度期首残高	28,531千円	有形固定資産の取得に伴う増加額	-	時の経過による調整額	159千円	資産除去債務の履行による減少額	-	見積りの変更による影響額	-	当中間会計期間末残高	28,691千円
当事業年度期首残高	28,531千円											
有形固定資産の取得に伴う増加額	-											
時の経過による調整額	159千円											
資産除去債務の履行による減少額	-											
見積りの変更による影響額	-											
当中間会計期間末残高	28,691千円											

（セグメント情報等）

第20期中間会計期間（自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日）

1．セグメント情報

当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載しておりません。

2．関連情報

（1）製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービスはアセットマネジメント業として単一であるため、記載しておりません。

（2）地域ごとの情報

営業収益

（単位：千円）

日本	ルクセンブルグ	米国	その他	合計
266,610	371,349	116,092	2,958	757,011

（注）営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

有形固定資産

国内に所在している有形固定資産の額が中間貸借対照表の有形固定資産の額の90%超であるため、記載を省略しております。

（3）主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の氏名または名称	営業収益
フランクリン テンプルトン インターナショナル サービス S.A.R.L	371,349
フランクリン テンプルトン カンパニーズ エルエルシー	105,450

（1株当たり情報）

第20期中間会計期間 （自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日）	
1株当たり純資産額	14,036円73銭
1株当たり中間純利益金額	1,463円12銭
なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については潜在株式の発行がないため、記載しておりません。	
1株当たり中間純利益金額の算定の基礎	
中間損益計算書上の中間純利益	63,762千円
普通株主に帰属しない金額	-
普通株式に係る中間純利益	63,762千円
期中平均株式数	43,580株

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

<更新後>

(1) 受託会社

名称 : 三菱UFJ信託銀行株式会社
 資本金の額 : 324,279百万円（平成27年3月末日現在）
 事業の内容 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名称	資本金の額 (平成27年3月末日現在)	事業の内容
株式会社SBI証券	47,937百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
高木証券株式会社	11,069百万円	
楽天証券株式会社	7,495百万円	
三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

2【関係業務の概要】

<更新後>

(1) 受託会社

ファンドの受託者として投資信託財産の保管・管理・計算、外国有価証券を保管・管理する外国の金融機関への指示および連絡等を行います。なお、受託会社は、ファンドに係る信託事務の処理の一部について日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託しております。

<参考：再信託受託会社の概要>

名称 : 日本マスタートラスト信託銀行株式会社
 資本金の額 : 10,000百万円（平成27年3月末日現在）
 事業の内容 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

ファンドの販売会社として、受益権の募集・販売の取扱い、信託契約の一部解約に関する事務、収益分配金の再投資に関する事務、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いに関する事務等を行います。

独立監査人の中間監査報告書

平成27年7月8日

フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社

取締役会 御中

P w C あらた監査法人

指定社員

公認会計士 山口 健志 印

業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているテンプレトン・グローバル株式ファンドの平成26年11月29日から平成27年5月28日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、テンプレトン・グローバル株式ファンドの平成27年5月28日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成26年11月29日から平成27年5月28日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成26年12月16日

フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 和田 渉
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているフランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社の平成25年10月1日から平成26年9月30日までの第19期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成27年6月12日

フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社
取締役会御中

あらた監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 和田 渉 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているフランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社の平成26年10月1日から平成27年9月30日までの第20期事業年度の中間会計期間（平成26年10月1日から平成27年3月31日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社の平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成26年10月1日から平成27年3月31日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBR Lデータは中間監査の対象には含まれていません。